

ミニ・シリーズ：湿地の自然環境（1）

その1：ケニアのタナデルタ

国際耕種の業務はこれまで、西アジアから中近東、アフリカ地域における乾燥地あるいは半乾燥地における農業開発あるいは環境保全に関わるものが多かった。そんな中で、限られた機会ではあるが、乾燥地とは対照的な湿地の自然環境に関わる業務に携わることが出来た。本ミニ・シリーズでは、こうした湿地関連の話題を取り上げてみたい。

第19号で既に紹介した様に、ケニア国最大の河川であるタナ川の下流域にはタナデルタと呼ばれる湿地帯が広がっている。本地域には周期的な洪水によって成立した森林が発達しており、こうした河岸性森林は熱帯雨林に較べて多様性には劣るものの、極めてユニークな植物種によって構成されている。しかしながら、タナ川の流域開発に伴う洪水の制御あるいは、住民による森林資源の採取によって、本地域の河岸性森林は衰退の一途をたどっている。そのため、これらの森林を生息地とする動物の生存も脅かされており、特に樹上生活を営む Tana River Red Colobus や Crested Mangabey といった希少霊長類は共に IUCN Red Data Book の絶滅危惧種に指定されている。霊長類だけでなく大型ほ乳類、鳥類、魚類にとっても湿地の生態系が重要な役割を果たしている。つまり、種や生物の多様性の保全にとって湿地は極めて重要な環境であるといえる。河川や湖から得られる豊富な漁業資源は、地域住民にとって貴重な蛋白源となっている。また、河岸性森林は建築資材や燃料あるいは食用・薬用植物といった資源を住民に提供している。魚の燻製用には森から得られた特別な樹木の枝が使われている。こうした資源としての価値だけでなく、湿地は洪水や浸食を抑制し、地下水を涵養するといった重要な機能も併せ持っている。

このように、河岸性森林を中心とした湿地生態系の機能は生物社会にとって重要な役割を果たし、地域住民にも様々な経済的利益をもたらしている。湿地の資源が減少したり機能が悪化したりすると、大きな経済的な損失を招いたり、その機能を補うために莫大な経済的な負担を抱えることになる。実際、開発の影響で喪失あるいは危機に瀕している湿地は世界的な環境問題となっており、開発調査環境配慮ガイドラインでも湿地は特に配慮の必要な生態系として取り上げられている。発展途上国の場合は特に地域住民と湿地との経済的な結びつきが強く、多くの人々が自然の湿地と直接に関わって暮らしている。環境問題が地球規模で重要な課題になっている今、我々としては地域によって異なる住民と自然との関わりが適正に把握出来るよう、調査並びに評価の手法に工夫を加えて行きたいと考えている。



タナ川と河岸性森林



種類の豊富な鳥類



樹上生活を営む
Tana River red colobus



草原で草を食む
Waterbuckの群れ



湖や河川から得られる
豊富な漁業資源